

2016 年度春学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	キリスト教・同志社関係	科 目
-----------	-------------	-----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

評点平均値の科目区分間比較で見ると、授業に対する学生の反応と行動に関する項目（授業理解度、意欲、知的好奇心、授業外学習時間）の結果が軒並み低位である。実施 27 クラス中 18 クラスが必修科目であることを考えると、残念ながらやむをえない面がある。

一方、教員の授業方法と行動に関する項目では、「授業の工夫」「授業レベル」「話し方」で全学平均に近い数値である。「シラバスとの合致」(4.14) は、科目区分全体では全学平均値をやや下回る程度であるが、評点分布の傾向には担当教員による差異が見られ、この点では改善の余地があるように見受けられる。「集中できる雰囲気」が著しく低い数値 (3.94) であるのは、大教室で多人数のクラスの割合が高いことに起因すると思われる。

また DWCLA10 の科目区分選択率で見ると、「創造力」(28.3%) と「思いやる力」(21.3%) では全学選択率を大きく上回っている。これらの結果は担当教員により多少の差はあるものの、とりわけ必修の「聖書 A」によるところが大きい。クラス別ではそれ以外の項目でも全学選択率を凌駕するものも散見され、担当教員の工夫により独自の魅力を備えた授業が展開されていることが伺われる。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育開発支援センター